

プロ野球労組の40年の歴史

初代、巨人の中畑清会長から見事にバトンが引き継がれ、隷属的な契約から選手の権利を広げていったプロ野球労組の40年。ノンフィクションライター木村元彦さんの講演録です。(関連記事3面)



印刷部数 102,100部 発行人・編集人 吉川 豊

定価 五十円
(年間購読料 千八百円)
購読料は組合費のなかに含まれています

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
ホームページ
https://www.tokyo-doken.or.jp/



「短・中期」2年目の土台づくり 春の拡大・最終盤

江戸川・京葉第二

夜間訪問と電話かけ実践し 目標上回る到達築く

「短・中期目標」達成にむけた2年目の土台づくりへ。仲間を増やす春の拡大月間は最終盤を迎え、5月26日の時点で新宿、府中国立支部など12支部が全都目標3・5%を突破しました。ホルムス海峡封鎖に伴うナフサショックが

仕事や暮らしを直撃するなか、各支部では昼夜の行動で仲間に寄り添い、「建設アクション運動」と連動した訪問行動を展開。最後まで、月間への協力と組合への結果を呼びかけました。



遠藤分会長（前列左から4人目）と日曜行動に集まった元気一杯の京葉第二分会のみなさん

5月23日のTBS報道特集で「私たちの声は届いていないのか。止まる工事現場、追い詰められる中小建設業者の切実な声」と題した番組が放映されました。TBSの目下部キャスターによる取材に中村隆幸委員長が応え、組合を代表して仲間の深刻な現状について訴えました。

組合として、4月末から5月初旬にかけて国や都へ窮状を訴えました。結果、すべての都議会派が知事へ緊急要望を上げ、国土交通省が組合を通じた一人親方や中小零細

6月末までに思い集めて

経産省への緊急署名

業者のヒアリングを開始するなど、一定の動きを作り出しました。しかし、各省庁の返答や対応は総じて緩慢で、私たちの危機感を反映したものはなっていない。



TBSの取材に対して、仲間の窮状を訴える中村委員長

6月以降も建築資材不足や入荷困難が予想されます。材料高騰や資材入荷未定の不安、そして現場がストップすれば売り上げは立たず、事業継続に大きな支障をきたします。さらに、施主の仮住まいや保険期間の延長等の二次被害も出てきます。情勢は一刻

と深刻さを増しています。緊急で経産省宛ての署名に取り組みます。資材の流通円滑化や価格高騰への適切な措置、中小業者の支援を求めるものです。6月末までの短期間の取り組みとなりますが、みなさんの現状、思いを署名に託してください。国会会期末となる7月17日までに緊急署名を持って、建設アクション実行委員会で経産省への要請行動に取り組みます。

大きな江戸川支部の中でも500人を超える最大の分会、京葉第二分会。都営新宿線の篠崎駅から程近い、立地の良い場所に分会センターを構えています。春の月間の分会目標を1人上回る19人の到達で5月24日の日曜行動を迎え、センターには多くの仲間

が集まりました。遠藤茂夫分会長(左)は、加入の特徴について「やはり事業所からの加入が多かったものの、新しく起業した会社も加入してくれた」とこれまでを振り返りました。夜間行動では、毎回、5〜6人が集結。訪問班と電話かけなどを行なう留守番班に分けて、対話に足を出しました。ナフ

サショックや物価高の折、滞納者や新加入者を丁寧に回ったといえます。ナフサショック 広がる資材不足 担当役員としてこの日の行動に参加していた支部の川島裕生副委員長はナフサの影響について「やはり塗装が一番影響を受けている。鉄筋のさ

び止めも不足しているようだ」と仲間の現状にふれ、自身も「受注はしているが、資材がなくて動かせない現場がある」と述べました。また、江戸川支部の徳山英成さんが本部組織部長を担うことについて「プレッシャーは感じていないが、支部として、更にがんばらなくては」との思いを語ってくれました。

6月の住宅デーにむけてのポスター掲示や、木工教室の準備なども行なった後、12時過ぎより昼食を兼ねた懇親会となりました。徳山さんもかけつけるなかで、工藤慶司分会書記長の音頭で元気に写真撮影。分会の目標達成を祝って英気を養いつつ、支部全体の月間成功にむけても奮闘を誓い合いました。

6月は各地で住宅デー

東京土建・住宅デーのパソコン・スマホ版の案内ページを開設しています。右下二次元コードを読み込むと、各地域の会場名、日程、住所、地図を確認することができます。ぜひ地域の会場に足を運びのと共に、地域の町会、協力団体、また地域の議員のみなさんにも広めてください。大勢の参加で住宅デーを成功させましょう。(一部、秋開催地域あり)



6月の住宅デーにむけてのポスター掲示や、木工教室の準備なども行なった後、12時過ぎより昼食を兼ねた懇親会となりました。徳山さんもかけつけるなかで、工藤慶司分会書記長の音頭で元気に写真撮影。分会の目標達成を祝って英気を養いつつ、支部全体の月間成功にむけても奮闘を誓い合いました。

【夕エイト】 ジジ。今から約30年前、マレーシアのジョホールバルで、日本は初めてのワールドカップ出場をかけてイラン代表と対戦した。その際、この二人は要注意選手として警戒されるなかで、前評判通りにゴールを決め、日本を最後まで苦しめた。「敵ながら一サッカーファンとして、この名を忘れずによく覚えていよう」

朝やけ

【イラン代表が、6月に北中米で開かれるサッカーW杯に出場する予定だ。ロサンゼルスとシアトルで試合が行なわれることから、アメリカとの戦いの影響が懸念されている。キャンプ地をメキシコに変更して米国内での長期滞在を回避するなど、調整が続いているが、決勝トーナメントに進めばアメリカ代表との直接対決の可能性もある組合わせとなっている。

【大会を主催する国際サッカー連盟(FIFA)のインフアンティール会長は「人々を一つにまとめるためには」と語っているが、トランプ氏に新設してまで「FIFA平和賞」を贈った人物だ。イランとアメリカはW杯でどんなプレーを見せ、FIFAは大会の運営を通じて、今の世界にどんなメッセージを発するのか。こんな時だからこそ、サッカーを愛する世界の人々の連帯を信じて注目したい。

国会前に集う1万人 憲法の理念守れの声をあげ



新しい感性のプラカードとペンライトで

恒例の19日行動は、国会前に1万人(東京土建51人)が集まりました。
ラサール石井(社民)、仁比聡平(共産)、伊波洋一(沖縄の風)、有田芳生(中道改革)、小西ひろゆき(立憲)ら国会議員のあいさつに続き、日韓和解と平和プラットフォームからは「5・18光州事件から46年。2024年にも戒厳令を食い止めた韓国市民と、平和憲法を守る日本市民の闘いは繋ぎ合っている」とのメッセージが届きました。

宮古島から参加した石嶺かおりさんは、先島諸島の12万人もの全島避難訓練に触れ、「避難は強制疎開」と訴えました。
高校教諭の参加者は、全ての子が平和に生き学んで遊べる自由を求め、ガザやイランの問題を指摘し「憲法の理念こそ世界に訴えるべき」と語りました。最後に、韓国にいる高市首相に届くよう「戦争したがる首相はいらない、憲法改悪反対、人権守れ」とコールしました。



国連本部へパレードする白須さん

その後、国連パスを取得し本会議を傍聴。一般討論では各国代表がスピーチ。核軍縮・不拡散をめぐる現在の国際情勢が言葉として刻まれて行く場面を間近にしました。日本の国光外務副大臣も登壇しましたが抽象的なステートメントで残念に思いました。
NGOセッションで、各国、日本から広島、長崎市長などの発言がありました。被団協の濱任事務局長も被爆者代表として演説。市民の代表が国際会議の場に存在する事の重みに、胸が熱くなりました。

函館で意気投合 43年経た再会

書記・碓谷栄治
今から43年前の夏、高校3年の私は北海道にいた。高2のときに読書部で読んだ『振り返れば地平線』で、視界360度の大パノラマの広がる開陽台など、北海道にバイクで行く夢が広がり、バイクで資金を貯め児童の400ccのバイクを借りてのソロ旅だった。2週間ものツーリングの終点で忘れられない出会いがあった。大阪から自転車から願います。



仲間たちの声援を受けながら行進

【建設アスベスト訴訟・東京訴訟について】
●1～3陣…国とメーカーを相手取っての訴訟
東京1陣は2008年5月に提訴(2陣は2014年5月、3陣は2020年3月)。国とメーカーの責任を追及し、最高裁で勝利し、当初認められなかった一人親方等への国の責任や、メーカーの責任も認めさせ、給付金法制定につなげた。
●4・5陣…メーカーを相手取っての訴訟
4陣は2022年6月、5陣は2025年12月に提訴し、メーカーの責任を追及している。

NPT報告

核廃絶へ組合の力を マムダニ発言に市民大興奮

4月27日からニューヨークで行なわれたNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に参加した、渋谷支部の白須美登里さんからの報告です。
【渋谷・設計・白須美登里通信員】米ニューヨークで4月27日より開催されたNPT再検討会議に渋谷支部から日本原水協代表団として被団協

の方々と共に参加しました。過去2回は最終文書は採択されず、世界中が核の脅威を感じている今、全会一致の成果文書を出せるかが争点となる国際会議でした。
現地入り早々、開催に先立ちニューヨーク公共図書館から国連までパレードを行ない各団体の皆さんと一緒に世代と国境を越え核兵器のない世界の実現を訴えました。

その後、国連パスを取得し本会議を傍聴。一般討論では各国代表がスピーチ。核軍縮・不拡散をめぐる現在の国際情勢が言葉として刻まれて行く場面を間近にしました。日本の国光外務副大臣も登壇しましたが抽象的なステートメントで残念に思いました。
NGOセッションで、各国、日本から広島、長崎市長などの発言がありました。被団協の濱任事務局長も被爆者代表として演説。市民の代表が国際会議の場に存在する事の重みに、胸が熱くなりました。

その後、国連パスを取得し本会議を傍聴。一般討論では各国代表がスピーチ。核軍縮・不拡散をめぐる現在の国際情勢が言葉として刻まれて行く場面を間近にしました。日本の国光外務副大臣も登壇しましたが抽象的なステートメントで残念に思いました。
NGOセッションで、各国、日本から広島、長崎市長などの発言がありました。被団協の濱任事務局長も被爆者代表として演説。市民の代表が国際会議の場に存在する事の重みに、胸が熱くなりました。

仲問

民主党を担当し「材料の大幅な値上がり」や「材料が入らず工事ができない」など、現場での困りごとや実態を組合へ寄せてください。危機を乗り越えらるよう、共にがんばりましょう。(小平東村山)

6月には状況はさらに深刻化しそうです。諦めず、我々の声を行政に届ける必要を強く感じました。皆さんも、現場での困りごとや実態を組合へ寄せてください。危機を乗り越えらるよう、共にがんばりましょう。(小平東村山)

原告が悲痛な体験語り 「企業は責任認めて」

5月11日、建設アスベスト訴訟東京5陣の東京地裁、第1回期日を迎えました。
原告、弁護士らが交代でマイクを握りました。
原告代表の阿部誠さんは、悪性中皮腫と診断されて目の前が真っ暗になった心境、その後の治療の苦しみ、今も続く命の不安を語り、すべての被害者が救済されるまで全力

でたたかうと誓い、支援を訴えました。
集会の後、原告団を先頭に入廷行進。法廷に入りきれなかった仲間、移動して報告集会に向かいました。
東京地裁民事部で最大の103号法廷を仲間が埋めつくすなか、ネット会議システム



杖を突き寄り添い入廷

削治療を経て一旦は回復しましたが、がんが再発したなかでの痛みと苦しみ、不安を語り「企業は逃げずに責任を認めて」と訴えました。
遺族原告・大山艶子さんの陳述では法廷が静まり返りました。大柄で頑健だった夫の誠一さんは2023年6月の検診で肺に影が見つかり、後に肺がんと判明。抗がん剤治療が始まった10月

は78キロだった体重が、5サイクルの治療を終えて、帰宅したときには60キロまで減少。治療の効果があがらないなか「死にたくない、生きていたい」と、時折口にするようになっていました。以前の好物も受け付けず、薬の副作用か怒りっぽくなり、緩和ケア施設の入所が決まった矢先に容体が急変して亡くなった、との陳述でした。
続いて弁護士が改めて被害の深刻さを説明し、1000

万トン輸入されたアスベストの7割が建材に使われ労災認定の半数を超えるほど建設業の被害は甚大だと指摘。2021年5月、最高裁が国とメーカーの責任を認め、首相が謝罪し、超党派の国会議員の動きで6月に給付金法が成立し、国からの賠償はされる一方、建材メーカーは2025年8月を皮切りに、複数の和解が成立しているのにまだ裁判を引き延ばそうとする被告の姿勢を追及しました。

中東情勢での要請

諦めず声を届け続けねば

サイディング・川合和利
4月28日、都議会議事堂へ各党派の要請が届けられた。5月8日の全建連連での省庁要請にも参加しました。経産省は比較的現場の声を受け止めた印象でしたが、財務省や厚労省は、現行制度の範囲内での対応に終始。厳しい現実を実感しました。記者会見に参加したマスコミ8社はしっかりと発信してほしいです。
6月には状況はさらに深刻化しそうです。諦めず、我々の声を行政に届ける必要を強く感じました。皆さんも、現場での困りごとや実態を組合へ寄せてください。危機を乗り越えらるよう、共にがんばりましょう。(小平東村山)

拒否権ない・移籍もできない隷従契約から

選手の権利を広げた

プロ野球労組

40年

講演 木村元彦

	会長	功績
初代	中畑清 (巨人)	最低年俸保障制度(二軍360万円、一軍840万円)を確立。底辺にいる選手の生活を支えることから着手しました。
2代目	原辰徳 (巨人)	選手年金を18%増額。短命なキャリア後の不安を解消しました。
3代目	岡田彰布 (阪神)	日本球界最大の転換点であるフリーエージェント (FA) 権を獲得。中日の球団代表だった伊藤氏と1対1で粘り強く交渉し、「嫌ならやめろ」と言わせない環境を作りました。
4代目	正田耕三 (広島)	石井浩郎(近鉄)選手を救済し、不当な減額制限から個々の選手を守り抜きました。
5代目	古田敦也 (ヤクルト)	2004年オリックスと近鉄を合併し球団数を減らす計画に対しストライキを決行。東京高裁への仮処分申請で選手会は労働組合としての法的・社会的な後押しを得ました。
6代目	宮本慎也 (ヤクルト)	FA取得までの期間短縮や、肖像権を巡る法廷闘争を実施しました。
7代目	新井貴浩 (阪神)	東日本大震災の際、開幕を強行しようとするセ・リーグに抗議し義援金を集めました。不公平なWBCの スポンサー権利問題でもアメリカから改善を勝ち取りました。
8代目	嶋基宏 (楽天)	学生野球資格回復制度を成立させ、引退後にアマチュアを指導できる道を開きました。
9代目	炭谷銀仁朗 (西武)	選手会は社会的な団体と言い、8億円近い「コロナ基金」を集めました。
10代目	會澤翼 (広島)	現役ドラフト制度導入や、パワハラ対策窓口を設置しました。

まず知っていただきたいのは、1985年に労働組合ができる前のプロ野球界がいかに異常な世界だったかということです。当時、選手たちは1951年にGHQが関与して作られた古い『野球協約』に縛られていました。選手は『統一契約書』で球団に完全に拘束されています。ドラフトで指名されれば拒否権はなく、入団後も移籍の自由は一切ありません。球団が「任意引退」と決めれば、

5代目・古田敦也氏(ヤクルト)は、日本中に語り継が

完全拘束で自由なし

不条理に立ち上がった中畑

日本プロ野球選手会が労働組合として産声を上げてから40年になりました。5月10日の教宣活動者会議に『労組日本プロ野球選手会を作った男たち』の著者、木村元彦さんを招き、一見華やかで特殊な職業と思われていたプロ野球選手が、実は隷属的な契約にしばられており、そこからどのように労働者の権利を勝ち取ってきたのか、その苦闘と団結の歴史を話していただきました。(文責・見出し共に編集部)



講演した木村さん

他球団との交渉も禁じられ、実質的に飼育にされることもありました。

秘密裏に火を灯した団結の原点

選手の肖像権も球団に帰属し、球団は本人の許可なく写真や映像を使い、その利益が選手に還元されないことも常でした。お弁当のプロデュー

この不条理な壁を最初に打ち破ろうと立ち上がったのが、初代会長の中畑清氏でし

スに名前が使われた選手は、「その弁当がまずくても責任を取れない」とぼやいていました。365日の拘束体制にありながら、当時の最低年俸は2軍で280万円。これは一般社員よりも低い水準だったのです。

当時の選手会は親睦団体にすぎず、無力な存在でした。ロッカーのクローゼット設置や、ブルペンの椅子の改善といった要求さえ聞く耳を持ってもらえなかったのです。

中畑氏は、選手会参加だった山口恭一氏から「本気でやるなら労働組合にするしかない」と言われて決断します。NPB(日本野球機構)やオーナー会議に知られれば潰されてしまう状況のなかで、いかにして団結したのでしょうか。

中畑氏は、弁護士長の長嶋憲一氏などに相談し、またプロ野球28会(昭和28年度生まれ)に、「被災者に寄り添うべきだ」と開幕延期を要求。また本来、元駐米大使の加藤良三コミッショナーがやるべきWBCとのスポンサー権利問題でも、アメリカに対して真っ向からものを言い、改善を勝ち取りました。

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

高裁も異例の判決文

ファンもストライキ支持

東京高裁の竹内浩史裁判長は、選手会の仮処分申請に対し、「合併は経営サイドの問題と棄却しなからず、NPBの対応は誠実とは言えず、不当労働行為になり得る」と異例の決定文を出しました。これが「選手会は労働組合」という法的な後押しとなり、ストライキが成立したのです。

広島出身の新井氏は幼い頃から読んだという漫画『はだしのゲン』のように、アメリカに物怖じせず、正義を貫いたのです。プロ野球選手会の40年は、労働組合として学ぶべき点が多くあります。

まず要求する際は『世論を味方につける』ことに気を使いました。また、歴代会長は現役のトップ選手でありながら、無報酬で、時には球団からの不利益も覚悟して矢面に立ちました。そして何より、人間としてのつながりを大事にしました。敵チームでも人間同士、痛みを共有する。強固な連帯があったからこそ「個人事業主だから労働者ではない」という英知の結果なのです。

「被災者に寄り添うべきだ」と開幕延期を要求。また本来、元駐米大使の加藤良三コミッショナーがやるべきWBCとのスポンサー権利問題でも、アメリカに対して真っ向からものを言い、改善を勝ち取りました。

世論を味方にする人間として連帯

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

オーナー圧力にも仲間信じ分断乗り越え

仲間信じ分断乗り越え

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

側面からの圧力によるものでした。中畑氏は詰問せず、「いつか必ず戻ってくる」と柔軟に対応しました。1年後、尾花高夫氏が尽力し、ヤクルトは再び組合に復帰。信頼で分断を乗り越えたのです。

読者の怒りに火をつけました。古田氏は「試合をお見せできなくて申し訳ない」と涙ながらにストライキを発表

読者の怒りに火をつけました。古田氏は「試合をお見せできなくて申し訳ない」と涙ながらにストライキを発表

読者の怒りに火をつけました。古田氏は「試合をお見せできなくて申し訳ない」と涙ながらにストライキを発表

読者の怒りに火をつけました。古田氏は「試合をお見せできなくて申し訳ない」と涙ながらにストライキを発表

読者の怒りに火をつけました。古田氏は「試合をお見せできなくて申し訳ない」と涙ながらにストライキを発表



中畑さんの色紙を受け取った上原部長

7代目・新井貴浩氏(阪神)は、東日本大震災の際、開幕を強行しようとするセ・リーグ



三角さん

講演聞き労組の役割を再認識

【練馬内装・三角真弓記】改めて組合の存在意義につ

いて考えさせられた。選手会を労働組合にした中畑清氏は、労働法を学び「自分たちは人権のある労働者だ」と声を上げたのである。

この歩みは、建設業で働く私たちにしても他人事ではない。一人の力で跳ね返せない不当な扱いも、仲間が繋がることで大きな力

いて考えさせられた。選手会を労働組合にした中畑清氏は、労働法を学び「自分たちは人権のある労働者だ」と声を上げたのである。

この歩みは、建設業で働く私たちにしても他人事ではない。一人の力で跳ね返せない不当な扱いも、仲間が繋がることで大きな力

この歩みは、建設業で働く私たちにしても他人事ではない。一人の力で跳ね返せない不当な扱いも、仲間が繋がることで大きな力

うちの青年主婦シム 自慢44

狛江支部 青年部



薬師寺さん(右)から分道さんへ部長交代

【狛江・書記・山下修司 記】狛江の青年部一番の特徴といえは、いかに楽しんでいます。多摩川を

新参加者呼び込み

いかにレース挑みたい

「狛江古代カップ」に第2回目今年で34回から参加し続けている。いかに作戦は大変だし、



いかにレースで入賞し、その後は河原でBBQを楽しんだ参加者(2025年)

野前本部青年部長も参加したりと大賑わいでした。今年7月19日の予定なので、見学だけでも足を運んでくれると嬉しいですね。

国中熱気に包まれ ユニフォーム着て応援

ブラジル



Jimenez さん デジャクラ

フォームを買って家族みんなで応援するほど、サッカーが



【小平東村山/給排水設備/デジャクラ】水設備/デジャクラさん談】日本に住んで30年以上の私は、日本とブラジルの両方を応援しています。毎年のようにユニ

ベルギー 男子の一番人気 適応力あるプレー魅力



Kromm さん クロム

【杉並/リフォーム/クロマン・フィリップさん談】日本に来て16年になります。ベルギーで一番の人気スポーツはサッカーで、2番は自転車競技、3番はテニスです。サッカーは、男子の85%くらいが地域チームに入ってプレ

ーしていると思います。私も12歳までやっていました。ベルギーのスタイルは、高度なテクニックと攻撃的なプレー、そしてカウンターアタックを融合させた、適応力のある現代的なアプローチです。ディフェンダーは通常、積極的かつ主体的にプレーするように指導されます。固定されたシステムに執着せず、選手の空間認識能力、迅速な意思決定能力、そして守備か

サッカーW杯 2026

母国チームの

注目選手と

て、とても思い入れのある選手です。プレーで注目してほしいのはボールの扱い方。足元から離れないボールコントロールは、本当に素晴らしいです。他にも能力の高い選手がそろっており、連携と個性を発揮できるかが上位進出の鍵になると思います。そして、ブラジルは決勝まで進んでくれると信じています。



韓国 ベテランにエール 夢は南北合同チーム



Im さん イム

【足立/給排水設備/イム・チグアンさん談】韓国代表とサッカーW杯の一番の思い出は、日韓共催となった2002年大会。韓国代表はベスト4まで進むことができました。当時はテレビにかじりついて応援していた記憶があり、今でも誇れる記録です。ただ、現在の韓国はサッカーではなく野球に人気を取られてしまい強化がうまくいか

ないという実情もあります。母国の中心選手は、ソン・フミン選手です。ベテランの域にはなりましたが彼のプレーにはチームを引っ張る力があります。日本の長友選手もメンバー入りしたという事で、2人にはプレー以外の面でも、お互いががんばってもらいたいです。

見どころ

を教える



日本 喜び分かち瞬間が最高 目指すはベスト4

【天田/防水/若林亨さん談】サッカーという競技は、手を使えないという最強の理不尽があることが面白い。だからこそ、足元の精密なボールコントロールや、

戦術的なパスワークが決まった時は楽しい。プレーして、仲間たちと喜びを分かち合う瞬間は最高です。私が注目しているのは、久保建英選手。圧倒的なテクニックと高いサッカーIQを誇る、日本代表の若き至宝です。日本中が熱狂に包まれるその時まで、限界を超えて共に戦い抜き、歓喜の雄叫びを上げましょう。がんばれ、ニッポン!

事業支援・仕事・技術・資格の情報ページ

不払いや融資など仕事・経営の相談は遠慮なく東京土建の各支部事務所まで。

第49回 住宅デー

地域住民の信頼得て 悪徳商法の被害ストップを

6月の第1・第2日曜日を中心に、第49回住宅デーの開催がピークを迎えます。各支部・分会が工夫を凝らして準備を進めています。点検商法から地域住民を守る「住まいのことなら東京土建へ」を広めましょう。後藤英雄仕事対策部長からのよびかけです。



後藤部長



地域に根差し安心な住まいを支える

第49回 住宅デー

【本部仕事対策部長・後藤英雄記】春の拡大月間、大変お疲れ様でした。さて、東京土建では、6月第1・第2日曜日を中心として、5月初旬から11月末日まで、第49回住宅デーを開催いたします。コロナ禍以後、2023年からは再び全支部で住宅デーを開催してきました。今年も地域の隅々まで東京土建を知っていただく絶好の機会と捉えています。



昨年の板橋支部の住宅デー

え、開催を目指します。近年、点検商法は増え続けています。住宅相談に不安を感じている住民の方や、どこに相談すれば良いかわからないという声が聞かれます。こうしたニーズに応えるため、全分会での住宅デー開催を目指し、地域に「相談できる組合」としての認知を広げる原動力としていきます。そして、私たち組合が地域で取り組む地域貢献活動などを知らせ、信頼を強めます。また、住宅デーの

仲間と関係を築く機会にも

契機に、自治体・町会・商店街との結びつきを強化し、地域議員の方々にも積極的に案内することで、より強固な関係を築くことにつながります。さらに、各支部・分会の開催日程・内容が確認できるスマホ版も開設しました。首長や会派へ積極的に案内していきます。

熱中症対策

暑さに慣れていない今は 特にしつかり予防を

【労働対策部発】建設産業は、屋外作業や空調のない閉鎖空間での作業が多く、2025年の熱中症による私傷者数は、製造業に次いで多く発生しています。死亡災害だけを見ると、建設産業が最も多く発生しており、厚生労働省の統計では、2021年から

2025年の5年間の累計で、死亡者数48人と全体の約4割を占めています。熱中症にかかると、たとえ軽度で翌日から仕事に復帰できた場合でも脳や臓器にダメージが残るようになってきています。工期のひっ迫や一人作業、対策が職人任せになって

いる小規模現場など、重症化することもあり、特に、体が熱に慣れていないこの時期は油断できません。様々な熱中症対策グッズが売られ、各現場でも対策が取られるようになってきています。また、暑くなる前から積極的に学習を呼びかけ、各支部にて熱中症特別教育や安全衛生大会での学習など、仲間の熱中症対策・予防に力を入れています。

また、暑くなる前から積極的に学習を呼びかけ、各支部にて熱中症特別教育や安全衛生大会での学習など、仲間の熱中症対策・予防に力を入れています。

また、暑くなる前から積極的に学習を呼びかけ、各支部にて熱中症特別教育や安全衛生大会での学習など、仲間の熱中症対策・予防に力を入れています。



現場での注意喚起

熱中症は、死に至る恐ろしい労働災害であると同時に、対策をしつかりと取ることで予防することのできる災害でもあります。法改正により、現場の労働者だけでなく一人親方・個人事業主など同じ環境で働く職

者だけでなく一人親方・個人事業主など同じ環境で働く職



厚労省のサイト

点検商法対策にステッカー活用を

会場には、「気軽に住宅相談ができるコーナー」がある人に対する保護も義務付けられました。だからこそ、現場ごとの熱中症対策をしつかりと求めていくと同時に、熱中症のメカニズムとリスクを学び、体調を整え、自分でできる対策は厚労省サイトも参考に充分おこなって、この夏を乗り越えよう。

当日は、建設業体験や建設キャリアアップシステムの紹介、石綿調査者としての活動紹介に加え、木との触れ合いを兼ねる工作教室などの準備が進められています。会場によっては、飲食企画も予定されています。これらの取り組みを通じて、組合を広くアピールし、住宅相談へとつながり、地域での仕事確保と信頼関係づくりをすすめていく機会にしていきたいです。

仲間と関係を築く機会にも

契機に、自治体・町会・商店街との結びつきを強化し、地域議員の方々にも積極的に案内することで、より強固な関係を築くことにつながります。さらに、各支部・分会の開催日程・内容が確認できるスマホ版も開設しました。首長や会派へ積極的に案内していきます。



東京土建 地域住民を被害から守るためにも「点検商法ステッカー」の活用を

資格講習コーナー

申込み、問合せは各支部技術担当者へ

- ★池袋II技術研修センター
 - 【作業主任者】型枠支保工の組立て7月16日～17日(木金) 池袋、1万2千円
 - 【溶接】ガス溶接8月6日～7日(木金) 城東職業能力開発センター(足立区綾瀬)、1万7千円
 - 【溶接】アーク溶接8月3日～5日(月火水) 城東職業能力開発センター(足立区綾瀬)、2万円、ガス溶接と5日間セット割引3万5千円
 - 【建設機械】小型移動式クレーン6月25日～27日(木金土) 池袋(実技は足立支部会館)、3万5千円
 - 【パソコン講習】AutoCAD基本講座7月1日～7月29日(水曜5回) 池袋、4万8千円
 - 【建築士講習】(東京土建ATEC) 建築士定期講習(前回受講が2023年4月～2024年3月の方は、2027年3月までに受講義務) ①7月29日(水)、②8月19日(水) いずれも池袋、1万円
- 自由研削砥石7月15日(水) 池袋、8千円
- 熱中症①7月12日(日)午前、府中国立支部会館、②7月16日(水) 池袋、4千円
- 石綿7月14日(火) 池袋、5千円、自由研削砥石・丸のこ
- 熱中症と3日間セット割引1万9千円
- 自由研削砥石7月15日(水) 池袋、8千円
- 熱中症①7月12日(日)午前、府中国立支部会館、②7月16日(水) 池袋、4千円

労働安全衛生標語の募集

東京土建では、仲間の安全意識向上の取り組みの一つとして「労働安全衛生標語」を募集しています。「労働安全衛生」「職業病」「熱中症対策」「働き方改革」「ハラスメント」など幅広いテーマで呼びかけます。今夏も猛暑が予測されます。働く人の安全と健康の確保をめざし、労働災害のない快適な現場環境をつくりましょう。

支部から機関会議、労働対策部会等で厳選のうえ代表作品を選びますので、応募の詳細につきましては、所属支部へお問い合わせください。

※本部では、組合員本人からの直接の応募は受け付けていません

昨年選定された安全標語

- 無理をさせ 無理をするなど 無理を言う (江戸川支部)
- 安全は、人に頼るな、任せるな、みんなで行動せよ(災害 (練馬支部))